

ACCR 車両規定

本ラリーはJAF公認競技として開催されるため、参加車両規則も2023年JAF国内競技車両規則第2編ラリー車両規定第2.5条RF車両規定に定義される条件を満たしていなければならない。特に下記の特別規則および安全項目に関する規定については、公式車両検査において確認するので、十分注意し準備すること。

【ACCR特別規則】

△参加可能な車両

ACCR本戦クラス: 1992年までに生産された車両およびその同型車(マイナーチェンジを含む、エンジンも同型車)で、一般公道を走行できる車両に限る。また、一般公道を走行するためには、車両の最低地上高である9cmをクリアしていなければならない。

△車体カラーリングについて

車両製作に当たっては、クラシックカーのラリーイベントであることを踏まえ雰囲気を考慮して仕上げる。奇抜なボディーカラー(蛍光色など)は禁止。ただし、当時使用されていたカラーリングであることが認められた場合には許可する。

【参加クラス(2022年より)】

- ・ C1 (1965年までに生産された車両) /2000cc以下/2001cc以上
- ・ C2 (1975年までに生産された車両) /2000cc以下/2001cc以上
- ・ C3 (1992年までに生産された車両及び1989年までの同型車 ※ポルシェに関しては 930タイプまでとする) /2000cc以下/2001cc以上
- ・ OPEN (1992年までに生産された車両の内、年式に拘らずエンジン載せ替え等、大幅な改造をしている車両) /2000cc以下/2001cc以上

全てのクラスでブレーキキャリパー&ロータの変更は安全上の配慮により認める。

ターボ&スーパーチャージャー&ロータリーは排気量を1.5倍として計算する。

<大幅な改造の例>

- ・ 競技車両として製造された車両
- ・ 他メーカーのエンジンを積んだ車両
- ・ 型式認定以外のエンジンを積んだ車両
- ・ ミッションケースを変更した車両
- ・ オーバーフェンダーへ変更した車両

*参加クラスは、車両の製造年度を基本とし、それぞれのオリジナリティを考慮した各クラスを設定する。

*参加車両の少ないクラスが発生した場合は、クラスを統合する場合がある。

*チューニングのレベルについては自己申告を原則とするが、チューニングの内容によっては再車検を実施する。また、事実と異なる場合は賞典外とする。

【参加資格】

△全日本ラリー出場経験があり、WRCラリージャパン/ACCRに出場を予定している者。

△ドライバー及び、コドライバーは国内Bライセンス以上の取得を義務とする。

【安全規定】

△ロールケージ/ロールバー

2023年JAFラリー車両規定 第2章 第4.2.1条に沿ったRF車両用ロールゲージを装着すること。但し、初年度登録が2002年以前の車両についてはRB車両として参加を認める。

クルーの保護を目的に参加車両は6点式以上のロールケージ/ロールバーを装着することを義務とする。オープンカーについては鉄orアルミ製のハードトップの装着を義務とする。

メインロールバーは、車体下部の堅固な構造材にしっかりと取り付けられ、ドライバーが運転席に着席した状態でヘルメットの先端よりも高くなければならず、かつその幅はドライバーの肩より広くなければならない。なお、通常の運転姿勢におけるドライバーのヘルメットは、いかなる場合であってもロールバーと接触してはならない。

ロールケージを構成するパイプの仕様は、材質は冷間仕上継目無炭素鋼(引抜鋼管)とする。円形の断面を有する継目のない1本のパイプを使用すること。最小寸法は40mm(直径)×2mm(肉厚)とする。

*車両の構造上、規定通りに不可能な場合は事前に許可を得ることとする。

*オリジナル車両がボディ内部にロールバーを内蔵するなど、ロールバーが装着されていなくても参加を認める場合があるが、事前確認を得ること。

△けん引用穴あきブラケット

2023年JAFラリー車両規定 第2章 第6条に沿ったけん引用穴あきブラケットを装着すること。すべての車両は、前後に車両をけん引しうる強度/取り付け部分をもつリング状、または鋼板に穴をあけたけん引用ブラケットを備えること。このけん引用穴あきブラケットは、黄色オレンジあるいは赤色に塗られ、明らかに確認できるようにする。

また、強度が十分耐えうるベルトフックタイプや、車両に標準で搭載されている脱着式牽引ブラケットも使用可能とする。

△安全ベルト

2023年JAFラリー車両規定 第2章 第2条に沿って安全ベルトを追加装着すること。

安全ベルトは、ターン式バックル、あるいはレバー式のワンタッチ式フルハーネスタイプなど、4点以上の安全ベルトを装着することを義務とする。安全ベルトは、製造から10年以内の製品を使用すること。

△消火装置

2023年JAFラリー車両規定 第2章 第3.1条に沿って手動消火装置を搭載すること。1つ、あるいは2つの容器で粉末2kg以上の内容を装備すること。消火器は製造年月日から2年以内のものとする。(消火剤の充填期日もしくは前回の点検期日から2年を過ぎて使用してはならない)また、ドライバーやコドライバーが速やかに操作できる状態で車室内に搭載しなければならない。また、クラッシュ時、急減速度がいかなる方向に加えられても耐えられるように車室内に取り付けなければならない。

△競技車両に搭載する物

非常用停止表示板(三角停止板)を2枚、非常用信号灯を1点、救急薬品セットを1点、牽引用ロープ、A3版の"OK" "SOS"カード(車内の取出ししやすい位置に置くこと)を搭載することを義務とする。

△公式車両検査で不合格となった場合 改造および付加物取り付けなどにより技術委員長が安全でない車両と判断した場合、その指示に従い自車のスタート時刻30分前までに改善し、再車両検査に合格しなければ出走できない。

△クルーの安全

*レーシングスーツは、耐火炎、防災性素材生地为一体式であるものを使用すること。*グローブを着用すること(コ・ドライバーは任意)。

*また、フェイスマスクの着用を強く推奨する。

*ヘルメットは製造から10年以内のものを使用すること。

*本競技会においては、頭部および頸部の保護装置(FHR システム、HANS 等)の装着を強く推奨する。

△シート

シートは、FIA規格のシートでなくても許可する。ただし、シート及び、シートレールが車両にしっかりと固定されているものとする。倒れるシートやローバックタイプはNGとする。

△サーキットブレーカー

サーキットブレーカーは不要とする。

△タイヤ

「縦溝のあるタイヤを実装することができない車」を除き、ラジアルタイヤ使用を原則とする。なお、縦溝のあるタイヤを使用できない車種に関してはSタイヤ(その他)の使用を認めるが、あらかじめ使用サイズを連絡のこと。

事務局にて確認が取れた場合、特例として許可することもある。

△マフラー音量

マフラーの音量は、それぞれの車種ごとにおける車検の規定の範囲内の音量とする。但し、旧車両で排気音量が大きい事は理解するが、今まで開催されたACCRにおいてリエゾン区間の排気音が非常に大きいと、地域住民や所轄官庁より指摘を受けているので、リエゾンや住宅地街の走行では大きな排気音量を立てない様、十分注意して走行すること。

2023年改訂版